

担当教員：牛山眞貴子（ダンス） 杉山允宏（柔道）

「スポーツ C」（ダンス 1 年・後期必修）授業報告

教育学部 保健体育 牛山眞貴子

I はじめに

スポーツ C は対人スポーツ領域を担う科目で、学校体育の中で中学校は必修、高等学校は選択必修の科目として取り扱われている「柔道・ダンス」を組み合わせた 1 年生対象の教科専門授業である。「柔道」を前半 8 時間、「ダンス」を後半 7 時間行う。私はダンス後半 7 時間を担当しており、その授業について報告する。スポーツ C は必修の授業であり、受講生の中にはダンスを経験したことのない学生、不得意な学生、逆にダンスを専門とする学生、得意とする学生が含まれる男女混成クラスである。

II 受講生の構成

学校教員養成課程保健体育専修 1 年 8 人

その他 1 人

生活健康課程健康スポーツコース 1 年 2 2 人

III 授業の目的・到達目標

<授業目的>

- ① 基本技能の習得
- ② 身体への意識
- ③ 他者と関わる力
- ④ 安全性のための管理

上記の 4 点について学習を通して身につける。

<到達目標>

- ① ダンスの基本運動、基本技能を行なうことができる。
- ② ダンスの特性を説明することができる。
- ③ からだの動かしたい部分を意識しながらイネージを表現することができる。
- ④ 安全を確認しながら注意と配慮を行なうことができる。
- ⑤ 受講生が協力し合い準備と活動を行うことができる。

IV 授業内容（8 回まで柔道のため第 9 回が初回）

第 9 回ダンス入門 からだほぐし、パートナーズストレッチ，レクレーションダンス他

第 1 0 回基本的なリズムダンスの技能を高める

第 1 1 回基本的なリズムダンスの技能と指導

第 1 2 回発展的なリズムダンスの技能と指導

第 1 3 回楽しいダンス学習の工夫、ダンスの練習と創作

第 1 4 回楽しいダンス学習の工夫、ダンスの創作と発表

第 1 5 回ダンス学習の過程と学習成果を振り返る。自己評価、授業評価アンケート、授業ノート提出→総合評価をし、ノートは各自に後日返却した。

V 授業評価アンケート結果

受講生 3 1 名 回答数 2 9 名 欠席 2 名

ダンスの授業の理解（三段階で選択の評価）は

「難しく理解できなかった」0% 「取り組むうちに理解できるようになった」65.6% 「充分理解できた」34.4%であった。

授業に関する感想を以下列記する。

- 楽しい授業でした。
- マッサージやケアを習得したので実践したい。
- ペアを組むことであまり話したことのない人とも接することができた。
- みんなのようにハイテンションで踊ることができなくてもいいと思ってしまいました。
- もっとダンスの授業があったらいいのと思う。
- ダンスの技術が少しは上達できたと思う。
- ウォームアップやストレッチ等教員になって重要になってくることも学べてよかった。
- 思い切って恥ずかしくありませんでした。
- ダンスの授業を通して前より友だちとの信頼関係が深まってよかった。
- いっぱい汗がかけた。
- はじめてダンスを踊りダンスの難しさを知りました。
- ツイストがかなり苦手で大変でした。
- ダンスの楽しさが知れてよかった。
- 先生はどの場面においても私たちが教師になる上で大切なことを教えていただきとてもためになりました。

- からだで表現する楽しさと同時に難しさもわかった。
- もっとストレッチを勉強したい。
- 先生も本気でやっていただいたのでやる気が出ました。
- 最初は踊ることがイヤだったが踊るにつれて楽しくなった。
- 牛山先生のダンスの授業が受けれてよかったです。
- 少しはうまく踊れるようになった気がする。
- 自分たちでみんなが協力する機会を与えていただいたので溶け込みやすかった。
- マッサージの方法がわかってよかった。痛かったけれどからだが軽くなった。
- ウォームアップや創作ダンスのゲームなど楽しくてダンスが好きになった。
- 伸び伸び踊れて楽しかった。
- 授業の指導と展開という面でも勉強になった。
- 毎回の授業が情熱的でした。
- 曲の選曲がとてもよくて感動できました。
- 体力面に自信がなかったのですが、しんどくてもダンスならがんばれました。
- この授業を受けてダンスに興味を持ち私もしてみたくになりました。
- ダンススキルとかそう言うのではなく、言葉にはできないけれど何か自分のものになったような気がします。
- ストレッチを取り入れていたことでからだも心も和みました。
- ダンス AZ,先生、先輩の質の高いダンスを見てすごく参考になりました。
- はずかしさというのが最初はあったのですが、まっこ先生の巧みな言葉によって自分のはずかしさを忘れることができよかった。
- からだで表現するのは難しい。でも踊っているうちにスッキリする。
- からだのロックのはずし方、大きなからだの動かし方が見えて楽しかった。踊ることが楽しかったし、みんなで踊れたのが楽しかった。
- 部活をしているのに筋肉痛に悩まされてしまいました。

VI省察

今回の授業は、授業後のアンケートから100%の学生が理解したことが明らかになり、学生にとって、適切な内容と指導が行われた授業であったと評価できる。

次にアンケートの別欄に教科専門科目全般のことも含めて、授業改善についての学生の希望を

書かせた。上位の意見として

1位競技者としてのからだのケア等ストレッチ、トレーニングを定期的に行えるクラス、部屋（施設）の確保 23人

2位全体的に実技のクラスを増やしてほしい。実技が専門の割には少ない。15人

3位栄養面等の指導をしてくれるクラスが欲しい。13人

この3点が際立っていた。

今回の受講学生は、100%運動部に所属しており、現在チーム或いは、個人競技に取り組むアスリートやダンサーであり、積極的な活動を継続している。高校時代の競技歴が高く、その力を維持したい学生だけでなく、高校時代を超える力を身につけたいと願う学生が非常に多いことがわかった。

多くの学生が実技の不足感を感じていることから、体育の教科内でのカリキュラム、授業内容の再考と検討が今後必要だろう。

VII省察から見えてきた次年度の具体的改善策

この授業アンケートの結果を生かし、次年度、私自身が現在のカリキュラムを補完して改善していく方法を模索した。結果、個人の力に限界はあるが、私自身は次年度学生の希望を実現化するための授業を計画している。

体育では実技においてアドバンストクラスの開講が、教員の意思があれば可能であるため、個人的な改善策として牛山担当アドバンスト科目を単位認定されないが、学生の実技力向上のための補完授業として自主的に行うこととした。

○クラス1

受講生の要望の強かったアスリート・競技者レベルに対応できる「ストレッチ・アドバンスト」（もしくは「身体塾」という名称で考えている）クラス

○クラス2

ダンスを専門とする学生のためにより高度なスキルアップを目指す「ダンス・アドバンスト」

上記の2クラスを平成20年度試験的ケースのクラスとして自主開講していきたいと思う。